

令和6年度 上河内東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤として、「心の教育」の充実を図り，社会の変化に対応できる徳・体・知の調和のとれた，心身ともに健康で創造性に富む，人間性豊かな児童を育成する。

(2) 具体目標

仲良く助け合う子（やさしく） がまん強くやりぬく子（つよく） よく考え進んで学ぶ子（かしこく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人が意欲をもって精一杯活躍し，達成感や満足感を十分感じながら豊かな人間力を磨くことができる魅力ある学校を全職員で創造していくとともに，保護者や地域の協働のもと学校の教育力の活性化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

人間力の基盤となる「豊かな心」「健康な体」「確かな学力」を達成させるために

- (1) 豊かな環境，保護者や地域の教育力や全職員の創意工夫を生かした特色ある教育活動を推進し，魅力ある学校づくり，持続可能な学校づくりを目指す。
- (2) コミュニケーション能力を高め，望ましい人間関係を構築する。思いやりの心や規範意識を高め，人とよりよくかわりながら活動する環境づくりを行う。
- (3) 自ら健康・安全を考え実践する能力を育成する。生涯にわたって健康・安全な生活ができるよう，積極的に体づくりや食育を推進する。
- (4) 確かな学力の向上を図る。主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫・改善を重ねることにより，基礎学力の確実な定着を図り，思考力・判断力・表現力を育む学びに向かう集団作りに努める。
- (5) 特別支援教育を踏まえた児童理解や学級経営に努める。
- (6) 小中一貫教育を生かした教育計画の工夫・実践と上河内地域学校園構想と連携した教育活動の実践に努める。
- (7) 教育公務員としての使命を自覚し，協働性・同僚性を大切にしながら，教職員としての資質・能力の向上を図るとともに勤務時間を意識した業務改善を推進する。

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく，たくましいゆずっ子の育成

～基本を身につけ，人とつながり，夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- (1) 各教科（特別の教科道徳を含む），外国語活動，特別活動，総合的な学習の時間の教育課程表及び年間指導計画を編成するにあたっては日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則・小学校学習指導要領・栃木県教育委員会の指導指針並びに宇都宮市学校教育の重点の示すところを踏まえ，「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し，特色ある教育課程を編成する。
- (2) 「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「宇都宮市学校健康教育推進計画」「宇都宮市学校デジタル化推進基本計画」における目標を具現化し，豊かな人間力を磨くために，目指す児童の姿とそれを実現するための学校教育のあり方や具体的方策を明らかにした教育課程を編成する。
- (3) 「小中一貫教育」の趣旨を理解するとともに，地域学校園内で連携をとりながら，地域の実情や学校の実態を踏まえた教育課程が編成できるように配慮する。
- (4) 学校教育目標の具現化を図るため，学校経営方針や努力点・学校課題などを踏まえ，前年度の学校マネジメントの評価・教育課程実施の反省（学校自己評価）・児童や地域の実態を十分に考慮して編成する。
- (5) 小学校学習指導要領の趣旨を十分理解するとともに，教育活動全般にわたって徳・体・知の調和のとれた，思いやりあふれる豊かな心と自ら学び自ら考える「生きる力」を育むことを目指して「主体的・対話的で深い学び」が実現できる編成を行う。
- (6) 児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し，人権感覚の涵養を図りながら，異年齢集団による交流活動や教師と児童による主体的活動の推進と，意図的・計画的な実践化が図れる教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営 ・粘り強さと自己調整力を兼ね備えた豊かな心と確かな学力の調和の取れた育成を目指し、教職員が勤務時間を意識しつつ、協調性と同僚性を大切にしながら互いに高め合える学校経営の推進 (2) 学習指導 ・学校課題「自分の思いを豊かに表現し生き生きと学び合う児童の育成」 ○学びに向かう児童集団の育成（上河内地域学校園「学力向上アクション6プラン」の推進） (3) 児童生徒指導 ・相手の立場に立って考え、人とよりよくかかわることができる児童の育成 ○基本的な生活習慣を身に付け、規範意識をもって行動する児童の育成 (4) 健康（保健安全・食育）・体力 ・進んで体力の向上と健康の保持増進に取り組み、目標に向かって努力する児童の育成 ・メディアコントロールに適切に取り組む児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合85%以上 ⇒教職員・保護者の肯定的割合80%以上	① 授業の中に、効果的に話し合い活動を設定し、協働的な学習活動をとおして学習のねらいが深まるように工夫する。 ② 自分の意見を持ち、表現する力を身に付けさせるために、児童が全体の前でスピーチしたり、考えたことを書いたりする機会を意図的に設定する。 ③ 児童が主体的に学習に取り組めるよう、授業のめあてを理解し、見通しをもって学習を進め、振り返りで身に付いたことを確認できるような授業の実践に努める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答 児童 90.8%，教職員 100%，保護者 89.1% 指標を上回った。 ① 授業の中に、効果的な話し合い活動など、協働的な学習活動を続けたことで、ねらいが深まり児童の主体的な取り組みが見られた。 ② 児童が全体の前でスピーチしたり、考えたことを書いたりする機会を意図的に設定してきたが、表現することを苦手に思っている児童が一定数いるので、工夫が必要である。 ③ 授業では、めあてを理解し、見通しをもって学習を進め、振り返りで身に付いたことを確認するようにしたことで、児童が主体的に学習に取り組めるようになった。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的割合85%以上	① 思いやりや助け合いの心を育てられるように、考えや思いを伝え合える道徳教育の充実に努める。 ② 心が豊かになる読書活動の充実に努める。 ③ 人権教育を推進する。 ・人権標語の募集・掲示など人権週間の取組の工夫 ・児童集会の実施 ・いじめゼロ月間の取組 ④ 学級活動の内容を工夫する。 ・エンカウンターなど人間関係づくりのスキルの実践 ・集会活動の工夫・実践	B	【達成状況】 ・肯定的回答 児童 92.7%，教職員 94.4%，保護者 94.4%，地域 100% 指標を上回った。 ①④ 授業を実践し、思いやりの心の育成につながった。 ② 朝の学習や各教科内で、読書活動の充実に努めたことで、心の豊かな児童が育ってきている。 ③ 人権について意識して行動している児童の姿が多く見られ、活動の内容なども充実していた。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して行う。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 92.7%, 教職員 100%, 指標を上回った。 ① 学級での指導に加え、友達の善い行いを書いた「ほかほかカード」を廊下に掲示するなど、児童が認め合う場を設定した。各学級でお互いを褒め合う活動を設定した。 ② 水泳・縄跳びでは「検定カード」、持久走では「がんばりカード」を配付し、児童のがんばりを認め励ますことにより、児童の意欲向上を図った。 ③ 「希望と勇気、努力と強い意志」の価値について全学年重点的に指導した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者の肯定的割合 85%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行い、保護者に各種便りなどで取組について発信していく。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。 ④ 室内での過ごし方や遊具・設備の使い方の指導内容について、教職員の共通理解のもと、指導の徹底を図る。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員 94.4%, 保護者 91.1% 指標を上回った。 ① 感染症や熱中症、メディアコントロールについてなど、行事や時期に合わせた指導を行い、自ら健康管理をできるよう指導を行った。特にメディア機器の使い方についての指導を重点的に行った。 ② 学校栄養士による食育の授業(授業担当とのT・T)を全学年実施し、児童の発達段階に合わせた食に関する指導を行った。また、児童が食に興味を持てるような掲示物を作成し、地産地消などの意識を高めるようにした。 ③ 交通安全教室や地震・竜巻等の避難訓練を実施し、安全な避難の仕方を確認することができた。 ④ 年度初めに遊びのルールやゾーンについて、教職員で共通理解をはかり、各学級で指導を行った。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して行う。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童の自信や自己有用感を育むために、運動会等の学校行事において、目標をもって挑戦させ、自分の成長を振り返らせる場面を設定する。 ② 児童が友達と協力することの大切さを実感できるよう、農園活動などの体験活動を充実させ、児童に協力したことを実感させる。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 94.5%, 教職員 100% 指標を上回った。 ① キャリアパスポートや行事作文などを活用して、自分の成長を振り返らせ、成長を実感させることができています。 ② 農園活動での野菜作りや田植え・稲刈り・収穫を祝う会の体験活動を充実させるなどすることで、協力して生活をよりよくしようとする姿勢が育った。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。

2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A 6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、 A L Tと交流し、言語や文化につい て体験的に理解を深め、積極的にコ ミュニケーションを図ろうとする 態度を育成する。 ② 児童が日常生活に英語を使う場 を設定してコミュニケーション意 欲の向上を図る。	【達成状況】 ・ 肯定的回答 児童 86.2%, 教職員 88.9% 指標を達成した。 ① 積極的にコミュニケーションを図 ろうとする態度が育った。休み時間 にイベントや遊びを通して、A L T と交流を図る機会を設けた。 ② 週1回、英語で校内放送を行っ たり、特別教室に英語の表示をし たりすることで、意欲の向上に努 めた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合80%以上	① 生活科、社会科や総合的な学習の 時間における宇都宮学の授業、市 内や地域での校外学習等において、 学習内容に関連させながら児童が 身近な地域や宇都宮市の良さに気 づく指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文 化、伝統産業、特産物等について理 解を深められるよう努める。	【達成状況】 ・ 肯定的回答 児童 91.7% 指標を大幅に上回った。 ① 宇都宮学や生活科などの授業で地 域を扱ったり、図書室の郷土資料に 関するコーナーの活用を進めたり したことで、宇都宮の良さに気づ く児童が増え、日常的に図書資料 などを通して地域について触れる 姿が見られた。地元の食材を生か した給食のメニューを放送で伝え るなど食育との関連も図った。 ② それぞれの教員が、情報収集す るなどして、宇都宮の良さについ て理解を深められるよう努めた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 各教科の学習活動にデジタル機 器や図書、新聞を活用する機会を 意図的に設定し、それぞれのよさを 生かした活用能力の向上を図る。 ② 授業内容との関連に配慮した教 育図書の整備充実や学校図書館の 環境整備に努める。	【達成状況】 ・ 肯定的回答 児童 89.9%, 教職員 94.4% 指標を達成した。 ① 授業において積極的にI C T機器 や図書・新聞等を活用し、それぞ れの良さを生かし、適切に活用す る能力を育成することができた。高 学年では、学校図書館司書と連携 を図り、新聞を活用した授業にも 取り組んだ。 ② 教科書関連図書や、調べ学習で 使用する図書を揃え、児童が必要 な本を活用できるよう、学校図書 館の環境整備に努めた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。 ・ 発達段階に応じて、学校図書館 司書と連携を図り、新聞を活用し た授業に取り組む。

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育や社会科の学習等を通して、環境問題への関心を高め、環境を大切にしようとする意識や態度を育成する。 ② SDGs への関心を高め、日常生活において環境に配慮した行動がとれるように、日頃から、節電や節水、食べ残し等について繰り返し指導する。	A 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 93.6%, 教職員 83.3% 児童は指標を上回ったが、教職員は下回った。 ① 各教科等において各学年で地球環境についての関心を高める指導を行い、環境を大切にしようとする態度が育ってきた。 ② 給食などの生活にかかわる場面では、ごみの分別や残食などを意識させることで、環境への負荷や「もったいない。」という視点を育むことができた。しかし、電気の消し忘れや、水の無駄遣い、ごみの分別不足が見られるため、適宜指導する必要がある。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。 ・節電、節水、紙のリサイクルを呼びかけ、持続可能な社会への関心を高める。 ・持続可能な社会に関する本や資料を児童に紹介できるよう、図書室や保健室に場所を設ける。
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員 94.4% 指標を上回った。 ① いじめ等対策委員会や校内支援委員会等で共通理解を図り、担当者を中心に適切な支援を続けてきた。 ② 特別支援学級だけでなく、通常の学級においても、個別の支援計画を基に合理的な配慮を伴う指導に努めた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
3- (2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的割合 80%以上	① いじめ等対策委員会を設置し、定期的な情報共有、組織的な対応に努める。 ② 児童に対し思いやりや助け合いの心を育て、いじめの未然防止に努める。 ③ いじめの実態把握、早期発見・対応のためのアンケートや学校生活についての生活アンケートを年2回ずつ実施し、定期教育相談に生かす。 ④ いじめを認識した際は、正確に事実確認を行い、いじめを行った児童に対しては毅然とした指導を行う。 ⑤ いじめを受けた児童の安全確保と、保護者を含め親身な支援を迅速に行う。 ⑥ 学年だより、学校だよりなどで、いじめ対策を保護者にPRする。	A 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 97.2%, 保護者 74.5%, 地域 95.0% 児童と地域は指標を上回ったが、保護者は下回った。 ① 月に1度はいじめ等対策委員会を実施し、全教職員で情報共有を行い、いじめの未然防止を図った。 ② 全児童が「いじめゼロスローガン」を作成することで、いじめの防止につながった。 ③④⑤ アンケートの結果をもとに定期教育相談を実施した。児童同士のトラブルの早期発見につながり迅速な対応ができた。 ⑥ 各学年代表の「いじめゼロスローガン」や「いじめゼロ集会」の取組等を学年だよりや学校だよりで保護者に伝える努力をした。 【次年度の方針】 ①②③④⑤について継続して行う。 ⑥については、児童指導だよりを作成するなど、情報の提供を効果的に行っていく。いじめに対する学校の方針や取組について、保護者に説明し、PRにも力を入れる。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、Q-Uアンケート等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ 学級活動の内容を工夫する。 ・エンカウンターなど人間関係づくりのスキルの実践 ・集会活動の工夫・実践	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 96.3% 指標を大幅に上回った。 ① 学校では、児童の自己肯定感を高め、居がいのある学級づくりに努めた。 ② 教育相談を充実させたり、Q-Uアンケート等の結果を活用して、児童指導に取り組んだりすることができた。また、相談ボックスに届いた内容を児童指導に生かすことができた。 ③ 学級全体で楽しく過ごせる活動を取り入れたり、集会活動において児童の活躍の場を設定したりして、児童の登校意欲の向上に努めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ⇒児童の肯定的割合85%以上	① 児童の創意を取り入れた主体的活動が展開できるよう、学校行事・児童会活動・縦割り班活動などの活動内容を工夫する。 ② 各担任は、Q-Uアンケートの結果分析をするとともに、事例研究会等を実施し、児童一人一人が存在感のある学級経営を実践するための研修を行う。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 99.1% 指標を大幅に上回った。 ① 児童の主体的活動が展開できるように学校行事や児童会活動(縦割り班活動・集会活動)を推進した。 ② 校内研修会を開き、全職員で分析することを通して、学級経営に生かすことができた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行い、②についてはQ-Uアンケートの2回目も実施する。
4-(1) 教職員の資質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合85%以上	① ねらいを明確にし、教材教具を効果的に活用しながら、振り返りで学びが実感できるような授業の実践を工夫するとともに授業力の向上に努める。 ② 児童のつまずきの把握に努め、朝の学習や個別指導の充実を図りながら基礎基本の定着を図る。 ③ 学校課題に合わせた一人一授業の展開などを工夫して指導力の向上を図る。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 99.1%、保護者 81.3% 児童は指標を大幅に上回ったが、保護者は下回った。 ① 一人一授業と授業研究会を重ね、ねらいを明確にし、教材教具を効果的に活用しながら、振り返りで学びが実感できるような授業の実践を検討したことで、授業力の向上を図ることができた。 ② 児童のつまずきの把握に努め、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着を図ることができた。T・Tやかがやきルームの効果的活用、朝の学習時の複数教員による指導を実践した。 ③ 主体的な学びや深い学びにつながるための対話的学習方法等を研究し、指導力の向上に努めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。 ・学年だよりや、オープンスクール等を通して、学校での取組を保護者に知ってもらう機会を増やす。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答80%以上	① 打合せ等により、全教職員が定期的に情報を共有し、具体的な方策を検討し実践する。 ② 学校行事等に、全教職員が個性や能力を生かして共に活動することにより、協働意識を高める。 ③ 教職員間の「報告・連絡・相談」を推進し、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を作る。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員 94.4% 指標を大幅に上回った。 ① 職員会議や打ち合わせの他、掲示板やクラスルーム等のデジタルツールを活用し、全教職員が共通理解を図って教育活動を実施できるようにした。 ② 学校行事等の役割分担を明確にし、サポート体制を強化したため、協働意識が高まった。 ③ 「報告・連絡・相談」が着実に行われたことにより、見通しをもって学校行事や学年行事等に助け合いながら取り組むことができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合80%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識するとともに、チームを効果的に活用して業務改善を図る。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員 94.4% 指標を大幅に上回った。 ① 一人一人が勤務時間を意識し、効率的に進められるようチームで役割分担する等して業務に取り組んだ。 ② 昨年度の振り返りをもとに、業務の組織運営を見直し、行事等の実施方法の改善を図ることができた。 ③ 学習情報システムのほか、さくら連絡網や Google のクラスルームを活用し、業務の効率化を図ることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	○A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合80%以上	① 地域学校園の子どもの実態や学校と地域の実態を踏まえた共通の教育活動を工夫する。(小中合同あいさつ運動・乗り入れ授業・中学校訪問) ② 義務教育9年間の系統的な指導を見据えて、中学校においても継続的な指導が図れるよう、児童の引継を密に行う。 ③ 「小中一貫教育・地域学校園」の取組を保護者や地域に掲示物や学校だより等で周知する。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 92.1%, 保護者 87.0% 指標を上回った。 ① 小中学校が連絡を取り合いながら、連携した取組を工夫して行うことができた。 ② 児童生徒指導強化連絡会等を活用して、配慮が必要な児童に対する支援方法等について地域学校園内で共通理解を図ることができた。 ③ 「小中一貫教育・地域学校園」の取組を保護者や地域に掲示物や学校だより等で周知したことで、保護者の理解が深まった。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行う。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者・地域の肯定的割合 85%以上	① 地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。 ② 学校だよりや学年だより、ホームページ、授業参観等を通して、学校の情報を積極的に発信し、地域ボランティアや保護者に学校行事や授業への協力・参画を得られるようにする。 ③ 外部講師による出前授業や、学習支援ボランティアを活用した授業を積極的に取り入れ、内容の見直しや活動を工夫することで、よりよい活動ができるようにする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 98.2%, 保護者 92.2%, 地域 95.2% 指標を上回った。 ① 地域協議会を定期的に開催し、学校の経営方針や取組を説明することで、委員から適切な意見や評価を得て教育活動に生かすことができた。 ② 保護者が参加する学校行事やボランティア活動を多数実施した。また、その取組を学校だより等で家庭や地域に発信することができた。 ③ 出前授業や校外学習を積極的に取り入れ、充実した学習を展開することで、児童の興味関心を高めるとともに、学びを深めることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して行い、より多くの方に、理解・参画・協力を得られるように努めていく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員・保護者の肯定的割合 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、新型コロナウイルス感染予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員 94.4%, 保護者 94.1% 指標を上回った。 ① 毎月、教職員による安全点検を実施し、危険箇所の改善を図った。 ② 教職員間で共通理解を図り、災害時等に適切な対応がとれるよう努めた。 ③ 保健指導・管理に努め、特に、感染症対策について重点的に取り組んだ。 【次年度の方針】 ①については、校内の除草に力を入れ、安全に校庭で過ごせるようにする。 ②③を継続して行う。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において適切に、デジタル機器を効果的に活用する。 ② ICTに関する職員研修等を実施し、効果的な活用方法を授業に取り入れられるよう努める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 教職員 94.4% 指標を上回った。 ① ICT支援員とも連携を図り、授業において、積極的にデジタル機器を活用してきた。 ② 一人一授業で ICT の使用場面を参観したり、スクールタクトのワークシートを共有したりして、効果的に活用できるように努めた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	OB1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的割合 85%以上	① あいさつ運動について、児童会代表委員や高学年が中心となったもの、地域学校園の中学生と協力したもの、一斉下校時の班単位のものなど、全児童が関わる取組を工夫する。 ② 行事等の学校公開の際や登下校の際にも、保護者や地域の方へもしっかりあいさつができるよう指導の工夫・改善を図る。	A 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 97.2%, 教職員 77.8%, 保護者 90.6%, 地域 100% 児童・保護者・地域は指標を上回ったが、教職員は下回った。 ① 小中一貫教育の取組として、<u>中学生が小学校へ出向いてのあいさつ運動</u>など充実した取組を行うことで、あいさつの習慣化を図ることができた。 ② 各学級であいさつの大切さを繰り返し指導することで、児童のあいさつへの意識が向上した。 【次年度の方針】 ①②を継続して行い、あいさつの意味を考えたり、理解させたりする機会を設け、場に応じたあいさつの定着を図る。

○B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 「よい子の一日」の内容を意識して生活できるようにするために、重点化した生活標を設定し、定期的に振り返る「生活チェック」を長期休業後に行い、定着を図る。 ② 生活目標を守るよう指導を繰り返すとともに、帰りの会で振り返る場を設けて定着を図る。	【達成状況】 ・ 肯定的回答 児童 94.5%，教職員 94.4% 指標を上回った。 ① 「よい子の一日」の重点項目を教室等に掲示し、チェック表を基に振り返る機会をもつことで、決まりを守って生活することを意識することができた。 ② 月目標の設定や帰りの会で振り返る場を設けることできまりやマナーの定着を図った。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
○B3 児童は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加している。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的割合 80%以上	① 「ゆずっ子写真展」や「あいさつ運動の標語コンクール」に全児童が参加できるよう、実施方法を工夫する。 ② 地域で行う「ふれあい祭り」や「梵天祭り」などについて、まちづくり協議会等と連携して児童・保護者に周知し参加を促す。	【達成状況】 ・ 肯定的回答 児童 83.5%，教職員 94.4%，保護者 90.7%，地域 100% 指標を達成した。 ① 左記の2つのコンクールの作品づくりを夏休みの宿題とし、「あいさつ運動の標語コンクール」については全員応募するよう呼び掛けた。 ② 「ふれあい祭り」には、左記の2つのコンクールの作品だけでなく、授業で作成した絵画等の作品を全児童分展示して、さくら連絡網で周知したため、家族で見に行った児童が多かった。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。
○B4 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的割合 80%以上	① 思いやりの心をもって友達を「さん付け」で呼ぶよう指導したり、生活目標に設定したりして、児童の意識化を図る。 ② 相手の気持ちを考えた言葉づかいができるよう道徳や学級活動での授業を実践する。また、学校・学年だより・生活チェック表を活用して、家庭の協力を依頼する。	【達成状況】 ・ 肯定的回答 児童 88.1%，教職員 83.3%，保護者 85.2%，地域 100% 指標を上回った。 ① いじめゼロ月間・人権週間・月の目標などの機会に言葉遣いを意識させた。校内で、友達の名前を呼び捨てで呼ぶ児童が多い。改善されない。 ② 道徳や学級活動の授業を中心に、思いやり・親切、言葉づかいについての理解を図るとともに、学校・学年だよりを活用して、家庭の協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。 ①については、全職員が児童をどんな場面においても「さん付け」で呼ぶことを意識して指導する。

	B5 児童は、毎日、早寝・早起きができている。 【数値指標】 ⇒児童・保護者の肯定的割合 80%以上	① 学校だよりや保健だより、学年だより、PTA学年部会などを通して、保護者に啓発する。 ② 年2回の生活習慣チェックの結果から見られた課題を踏まえて、養護教諭が保健指導を実施する。児童の自己管理能力を高めるとともに、家庭と連携した早寝・早起きの意識付けと生活習慣の定着を図る。 ③ 学級活動や保健体育の授業等において、児童に早寝・早起きの大切さを理解させ、生活の改善につなげられるよう働きかける。	A 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 78.0%，保護者 86.5% - 保護者は指標を上回ったが、児童は下回った。 ① 各種便りを通して啓発し、児童・保護者の意識向上を図った。 ② 年2回、「生活習慣チェック」を実施し、家庭と連携して児童の生活習慣の形成に努めた。保健給食委員会でポスターや放送などで児童に啓発し、早寝早起きについて意識付けすることができた。また、「生活習慣チェック」の結果を踏まえて、養護教諭が各学年に保健指導を実施した。 【次年度の方針】 ①②を今後も継続して行うとともに、より一層家庭との連携に力を入れていく。改善の必要がある児童・家庭には、個別の連絡を密に行っていく。 ・学級活動や保健体育の授業等において、児童に早寝・早起きの大切さを理解させ、生活の改善につなげられるよう働きかける。 ・学級懇談会や個人懇談で、全学年保護者への啓発を行う。
	B6 児童は、縦割り班活動を仲良く行っている。 【数値指標】 ⇒児童・教職員の肯定的割合 85%以上	① 縦割り班活動による集団遊びを実践し、異学年交流を進めながら仲良く遊べるようにする。 ② 清掃や集会活動を縦割り班で実施し、協力して仕事や活動ができるようにする。	B 【達成状況】 ・肯定的回答 児童 96.3%，教職員 100% - 指標を大幅に上回った。 ① 集団遊びやスポーツタイムの活動では、学年に関係なく仲良く遊んだり、上級生が下級生に優しく接したりする姿が見られた。 ② 清掃や集会活動においても異学年での交流を行い、よりよい関係を構築することができた。 【次年度の方針】 ①②を継続して行う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校マネジメントの全体アンケートの結果、26ある評価項目のうち21項目が数値指標を達成した。

特に、A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」やB6「児童は、縦割り班活動を仲良く行っている。」は、回答した全ての対象において肯定的回答が90%以上という高い評価を得ることができた。これは、保護者等のボランティア活動や企業等による出前講座、児童の縦割り班活動を積極的に取り入れ、様々な教育活動の充実に努めた成果であると考えられる。また、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」においては、小中学校が連携して合同あいさつ運動などを行うとともに、学校だよりや校内掲示物で紹介することにより、保護者の肯定的回答が昨年度より大きく向上した。

昨年度の学校評価の反省から、「早寝・早起き・メディアコントロール」を合言葉として全校体制で健康教育に力を入れて取り組んだ結果、A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」の児童と保護者の肯定的回答は向上し、成果が見られた。しかしながら、B5「児童は、毎日、早寝・早起きができている。」の児童の肯定的回答は目標の80%に達しなかったため、引き続き、生活習慣の改善を図れるよう粘り強く指導していく必要がある。

B5のほか、数値指標を達成することができなかった項目については、改善が図られるよう教職員一人一人が常に意識して指導していく必要がある。

7 学校関係者評価

令和7年2月14日（金）に開催した「第4回上河内東小学校地域協議会」において、学校関係者評価を行った。
地域協議会委員から出された意見は、以下の通りである。

- ・ 本校は学級崩壊などの問題がなく、学校運営が順調に進められている。
- ・ B1「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」については、児童に比べて教職員の肯定的回答の割合が低い、先生方はもっとできていると思っていることの表れであるので、今後に期待したい。
- ・ あいさつはたいへんよくできており、自慢できる。
- ・ 手を挙げて横断歩道を渡ることができているが、止まってくれた車に対してお礼（会釈）ができるようになるとさらによい。
- ・ A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」については、肯定的回答の割合が昨年度に比べて向上してよかった。学年が上がるにつれて行動範囲が広がり、危険のリスクが増えるので、安全に気を付けられるようになってほしい。
- ・ 早寝・早起きについては個人差があるため、ライフスタイルに合わせた指導が必要である。
- ・ どの学級も仲が良く、まとまっている。
- ・ 登校渋りのある児童に対して、先生方が皆温かく迎えてくれるのでありがたい。
- ・ 不登校については、保護者と学校がよく話し合いながら、一人も取り残さないようにする必要がある。
- ・ 運動会では、児童の人数は少ないが、生き生きと活動しており、感動した。
- ・ 水泳の授業では、児童がミニ先生となって苦手な友達に教えている姿が見られ、心が温かくなった。
- ・ デジタル機器は授業によく取り入れられている。スマホ等で気軽に調べることができるが、たくさんある情報の中から正しい情報を選択する力を身に付ける必要がある。また、活字離れが心配である。
- ・ SDGsについては、節水や節電等をする事でどのような効果が得られるのかということの意味付けしながら指導するとよい。環境についてだけでなく、人権やジェンダーなどについても学ぶことが大切である。
- ・ 自分で気付き、考え、責任をもって行動できる力を育てていきたい。
- ・ 家庭教育が大切である。学校は、問題や課題を家庭に投げ掛けるとよい。
- ・ いろいろな方々の支えで子供たちが育てられていると感じている。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全体として、良い評価をいただくことができた。教職員の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様から寄せられた御意見を真摯に受け止め、次年度の方策を検討する。

【学校運営】

- ・ 教職員間の「報告・連絡・相談」を着実にを行い、一致団結してより質の高い教育活動を推進する。
- 上河内地域学校園内の小中学校と連絡を取り合いながら、連携した取組を工夫して行う。
- ・ 学校の取組を積極的に情報発信し、家庭や地域の教育力を最大限に活用して特色ある教育活動を推進する。

【学習指導】

- ・ 教員の指導力向上に努め、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
- ・ 児童一人一人が自分の意見をしっかりと持ち、表現する力を身に付けられるよう学習形態や指導法を工夫する。
- ・ 各教科等のねらいを踏まえた「リアル」と「デジタル」がベストミックスされた学習活動を実現できるよう、ICT機器や図書・新聞等を効果的に活用する。

【児童生徒指導】

- ・ 特別な支援を必要とする児童に対して、早期の段階からの組織的・計画的な支援を推進する。
- ・ 全教職員がいじめは絶対に許さないという毅然とした姿勢で指導に当たり、いじめ等対策委員会を定期的に実施して組織的な対応力に努める。
- きまりやマナーを守って生活できるよう規範意識を育成し、あいさつや言葉づかいについても地域学校園合同の取組を生かしながら継続して指導する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 児童が規則正しい生活習慣を身に付けられるよう、学級活動や保健体育の授業等での指導の充実を図るとともに、学校で指導した内容を家庭に伝え、協力を得られるよう啓発に努める。
- ・ 児童の自己肯定感を高められるような学級経営に取り組み、不登校の発生を未然に防ぐとともに、不登校傾向にある児童の早期発見・早期解決に努める。
- ・ 持続可能な社会への関心を高め、学んだことを日常生活で実践できるよう工夫して指導する。